

2022年7月1日

## ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 2022年度(第15回)候補者推薦募集開始のお知らせ ～制度の一部を改定し、「スポーツ界の縁の下の力持ち」のさらなるチャレンジを奨励～

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)では、「2022年度(第15回)ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」の候補者推薦募集を2022年7月1日(金)より開始します。

また、本表彰制度をわが国のスポーツ振興により強く結びつけるため、今年度より制度の一部を改定します。これまで同様、「スポーツ界の縁の下の力持ち」の功績を称えとともに、さらなるチャレンジを奨励する未来志向の表彰制度として発展させるため、従来の「功労賞」「奨励賞」を統合した「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」として表彰者の選考を行います。

### 記

#### ■ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞の概要

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞は、「スポーツ界の縁の下の力持ち」を表彰する制度です。スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、献身的かつ情熱的な活動によってその実現を支えた人物・団体を表彰します。

YMFSは、大きな成果そのものと同様に、その実現を支えた活動やプロセスもまた称賛されるべき対象だと考えています。スポーツチャレンジ賞は、それぞれの分野・立場において、夢や高い目標に向かって積極果敢に挑戦し、「縁の下から献身的な活動を続けた人物・団体」に敬意を表するとともに、今後さらなる活躍への期待を込めてエールを送る表彰制度です。本賞を通じて共感や称賛の輪が広がり、人々の新たな行動を起こすきっかけになること、そして「挑戦する心」が社会に浸透していくことを願って2008年度から実施しています。

■主催：公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

■後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会  
公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

#### ■対象と選考ポイント：

対象	スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、献身的な活動で縁の下から支えた人物・団体 (例)世界レベルの競技成果実現の背景で、重要な役割を果たした指導者や研究者、審判、支援者など
選考のポイント	1. スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、その実現に貢献・寄与した活動である 2. ロールモデルとして、他者や社会に対するより良い影響が期待できる 3. 今後、さらなる活動の発展や活躍が期待できる
賞典	賞金(個人)100万円・(団体)200万円、賞状、メダル、副賞

■募集期間：2022年7月1日(金)～2022年9月30日(金)

■推薦方法：1) 3ページ目に添付の推薦状に必要事項を記入の上、FAXにて送信してください。  
2) 当財団ウェブサイトから推薦状(Wordファイル)をダウンロードして、必要事項を入力の上、所定のフォームから送信してください。<https://www.ymfs.jp/prize/recommend/>  
※上記いずれかの方法で当財団までお送りください。



この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当：みずみ 三角)

■歴代受賞者(敬称略)

2021年度 (第14回)	功労賞	伊藤 裕子 (スイミングコーチ) 障害がある子ども向けスイミングスクールでだれもが楽しく学べる機会を提供
	奨励賞	山下 良美 (サッカー1級審判員・女子国際主審) 女子国際主審・サッカー1級審判員として国内外の試合で主審担当 スポーツ界における女性活躍を牽引
2020年度 (第13回)	奨励賞	越智 貴雄 (フォトグラファー) 写真を通しパラアスリートのアスリートとしての活躍・魅力を伝播
2019年度 (第12回)	奨励賞	Scrum Unison (スクラムユニゾン) ラグビーワールドカップ日本大会にて世界から集まる選手やファンを「国歌やラグビーアンセム」を歌って“おもてなし”
2018年度 (第11回)	功労賞	荒井 秀樹 (日本パラリンピックノルディックスキーチーム 監督) パラノルディックスキー、ゼロからの挑戦
	奨励賞	日本スケート連盟 スピードスケート科学サポートチーム 平昌オリンピックのスピードスケートマススタートおよびチームバシュート競技へ向けたレース分析サポート
2017年度 (第10回)	奨励賞	狩野 美雪 (デフバレーボール日本代表女子チーム 監督) トップ選手の経験を活かした指導でデフバレーボール日本女子代表を金メダルに導く
2016年度 (第9回)	功労賞	今村 大成 (株式会社タマス 取締役/Tamasu Butterfly Europa GmbH 社長) 日本若手卓球選手の武者修行を支え続ける「デュッセルドルフの父」
	奨励賞	野口 智博 (日本大学文理学部 教授/木村敬一選手パーソナルコーチ) 障害者スポーツ全体の課題に先鞭をつけた挑戦〜トップ選手の指導からパラアスリート強化の現場へ〜
2015年度 (第8回)	功労賞	藤原 進一郎 (日本障がい者体育・スポーツ研究会 元・理事長、日本障がい者スポーツ協会 元・理事、技術委員会 元・委員長、日本パラリンピック委員会 元・運営委員、極東・南太平洋身体障害者スポーツ連盟 スポーツ委員会 元・委員長) 「すべての障がい者の生活者にスポーツを——」その信念を貫いた 40年
	奨励賞	中島 正太 (15人制男子ラグビー日本代表チーム/7人制男子ラグビー日本代表チーム アナリスト) 先端技術を駆使したデータ分析で、ラグビー日本代表の躍進に貢献
2014年度 (第7回)	奨励賞	妻木 充法 (医学療法士、鍼灸あん摩マッサージ指圧師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーマスター) 公正なジャッジを支える「鍼治療」の技術
		門田 正久 (理学療法士、日本体育協会公認アスレティックトレーナー、日本障がい者スポーツ協会公認スポーツトレーナー、介護予防主任運動指導員) 障害者アスリートのメディカルサポート環境を拡充する取り組み
2013年度 (第6回)	功労賞	臼井 二美男 (義肢研究員、義肢装具士) スポーツ用義足の第一人者として「走る喜び」を提供する挑戦
	奨励賞	東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 戦略広報部 戦略広報という立場から東京 2020 招致を支えたプロフェッショナル
2012年度 (第5回)	功労賞	樋口 豊 (フィギュアスケートコーチ、振付師、解説者) 国際的な信頼と幅広いネットワークを活かし、日本フィギュアスケートの「開国」に貢献
	奨励賞	江黒 直樹 (ゴールボール女子日本代表チーム ヘッドコーチ) 「楽しいハビリスports」の普及をめざした日本女子ゴールボールチーム金メダルへの挑戦
2011年度 (第4回)	功労賞	岸本 健 (スポーツ写真家) スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献
		水谷 章人 (スポーツ写真家) 独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力
2010年度 (第3回)	功労賞	高田 静夫 (サッカー審判員) 日本人審判員の育成をめざした各種制度の確立と運用
	奨励賞	中村 宏之 (陸上指導者) 雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践
		中北 浩仁 (アイススレッジホッケー指導者) 強化システムの大改革で日本初のメダル獲得にチャレンジ
2009年度 (第2回)	功労賞	塚越 克己 (スポーツ医・科学研究者) 日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「緑の下の力持ち」
	奨励賞	増田 雄一 (アスレティックトレーナー) トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み
2008年度 (第1回)	功労賞	中野 政美 (柔道指導者) 女子柔道の世界レベル選手の育成と女子柔道の発展
	奨励賞	丸山 弘道 (車いすテニス指導者) 北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ

■選考委員会(敬称略/五十音順/2022年4月1日現在)

選考委員長	伊坂 忠夫	学校法人立命館 副総長、立命館大学 副学長、立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
選考委員	衛藤 隆	東京大学 名誉教授、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本こども家庭総合研究所 名誉所長
	景山 一郎	日本大学 名誉教授、一般社団法人先進路面摩擦データベース研究組合 代表理事
	草加 浩平	東京大学 大学院工学系研究科機械工学専攻 ディレクタ
	小島 智子	追手門学院大学 チアリーダー部ダンス部門 ヘッドコーチ
	定本 朋子	日本女子体育大学 名誉教授 特任教授
	篠原 菊紀	公立諏訪東京理科大学 工学部情報応用工学科 教授
	杉本 龍勇	法政大学 経済学部 教授
	瀬戸 邦弘	鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 准教授
	高橋 義雄	筑波大学 体育系 准教授
	野口 智博	日本大学 文理学部 教授
	増田 和実	金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授
	丸山 弘道	学校法人千葉明德学園 千葉明德中学校、高等学校 特任講師
	村上 晴香	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
	村田 亙	専修大学 ラグビー部監督
	ヨーコ セッターランド	日本女子体育大学 准教授、公益財団法人日本スポーツ協会 常務理事
	吉岡 伸輔	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授

## ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 推薦状

推薦者情報		
氏名		
所属		
連絡先	住所	〒
	TEL	( )
	FAX	( )
	e-mail	

候補者情報	
氏名	(ふりがな) .....
年齢	歳
所属	
推薦対象者が支えた大きな成果	
上記の成果を実現するための、推薦対象者による具体的な活動・実績および貢献度	
推薦対象者の主な受賞歴 (過去に受賞がある場合)	
推薦文	

※後日、事務局より推薦状受領のご連絡を差し上げます。FAX 送信後、1 週間経っても事務局より連絡がない場合は、お手数ですがお知らせいただけますと幸いです。